# 日本保健医療社会学会ニューズレター（No.109）2018/6/26

目次

１．第 44 回大会の報告
２．第 45 回大会について
３．30 周年記念事業
４．理事会・評議委員会報告
５．編集委員会報告
６．定例研究会の案内・報告（関西）
７．看護・ケア研究部会報告
８．渉外・国際交流活動の報告
９．編集後記

---

## １．第 44 回大会の報告（第 44 回大会長　細田満和子氏、星槎大学）

去る 5 月 19-20 日に星槎道都大学で開催された第 44 回大会は、140 名の参加者を得て盛会の内に終えることができました。今回、北海道という大会史上最北の地での実施となりましたが、全国から、そしてオーストラリアやアメリカなど海外から、遠路はるばるお越しいただき、ありがとうございました。運営面では、非会員も含む札幌医科大学の学生と教員、星槎道都大学の教職員、星槎大学大学院の院生等、皆様にたいへんお世話になり、心から感謝申し上げます。特に、事務局長の山本武志氏のご貢献は計り知れず、感謝の念に堪えません。

初日は、本大会テーマ「ヘルス・ガバナンスの可能性―地域社会の誰もが参画する保健医療実践に向けて―」の下、大会長講演「保健医療の現場からの問い」、Stephanie Short 氏（シドニー大学）による特別講演「Health Workforce Governance: Problems, Priorities, and Policy Recommendations」(園田基金海外研究者招聘)、メインシンポジウム「地域から考える保健医療の未来」が行われ、当事者、医療者、福祉関係者、行政、企業、研究者など様々な主体が問題解決の為に取り組む実態や課題や条件などについて知見を深め、議論することができました。登壇者の皆様にはあらためて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

一般演題は、口演が 31 題、RTD が 6 題、ポスターが 5 題でした。各部屋を回らせて頂きましたが、大会テーマに関連する大変興味深い発表がなされ、活発な議論が展開されていました。現場に寄り添い問題を丁寧に浮かび上がらせるような報告も多く、とても心強く思いました。また初となる理事会企画としてのナイトセッション、そ

して 30 周年記念プレシンポジウム「保健医療社会学における方法論の未来」も開催され、タイムリーな話題を議論したり、研究上の方法に関する課題を示したりしていただきました。近隣の北広島クラッセホテルの最上階で開催した懇親会にも、多くの皆様に参加していただきました。ご歓談と共に、北の大地のお料理や飲み物を存分に楽しんでいただけたと思います。

ご参加の皆様が本大会に参加され、充実感を得られ、これからの研究・実践の糧になるような何かを持ち帰っていただけたら望外の喜びです。皆様のご活躍がこの学会を支えていくことと思います。本学会のますますの発展を願い、皆様のご健勝をお祈りしております。

〈ナイトセッション〉報告（樫田理事、金子評議員）

1）「ナイトセッション 1　質的研究法に関する随想」について

樫田美雄（ナイトセッション 1 企画者）

今回のナイトセッションは，懇親会の会場のホテルにそのまま宿泊している会員が多いことに鑑み，そのメリットを活用するべく企画されたものです．全体として，２つのセッションが別室で組まれ，予想を超える聴衆が集まりました（ナイトセッション 1 に 29 名，ナイトセッション 2 に 15 名の合計 44 名）．以下，本稿ではナイトセッション 1 に関しての報告を行います．

ナイトセッション 1 では，『質的研究法に関する随想』というタイトル下で，２つの話題提供がおこなわれました．最初の話題提供は，志水洋人（龍谷大学）「病いの語り研究の可能性をさぐる－英米で展開された論争を手がかりとして－」でした．Atkinson1997 による「語りの特権化」批判の位置付けをめぐって，聴衆を交えて，興味深い，多様な議論が交わされました．具体的には，語りの背景にある文脈をどのように，どの程度重視するのか，という点に議論が集まりましたが，司会者の意見としては，単に文脈を重視するという方針を取るだけでは不十分であり，語りをデータとして使うのとは違う研究の方向として，語りをトピックとして扱う方向もあり得ることに留意するのが肝心であるように思われました．

2 番目の話題提供は，松浦智恵美（立命館大学）「質的研究に思うこと」であり，みずからの質的調査経歴を振り返る発表でした．具体的には，初期の，退院した胃がん患者における胃部の「つまり感」に関する，無手勝流のインタビュー調査に対比して，近年の，新人看護師の研修場面に関する，ビデオを用いたエスノメソドロジー的な研究法を，方法の洗練として評価するものでした．司会者の意見としては，そのように一方向的に近年の自分の実践を評価するだけでなく，かつての，患者の「つまり感」をそのまま信じていた時代の自らの実践を，やはり一つの文化的実践であると理解して，そこにさらに社会学的探究の網をかけていく，という，社会学のやり方もあるように思われました．

2）ナイトセッション 2　日本医学教育評価機構（JACME）の審査について

金子雅彦（ナイトセッション 2 企画者）

本セッションでは、日本医学教育評価機構（JACME）の審査など、昨今の大学教育の質保証をめぐる状況について情報交換を行いました。

まず金子が話題提供として、日本の医科大学が医学教育分野別評価認証（国際認証）を受けるようになった経緯を紹介しました。2010 年のアメリカの外国医学部卒業生のための教育委員会（ECFMG）の通知（2023 年問題）を受けて、日本の医科大学も国際認証を得る必要性が生じました。そこで、日本医学教育評価機構（JACME）が設立され、2017 年に世界医学教育連盟（WFME）から国際評価機関の認証を受けました。JACME が用いる基礎的医学教育プログラムの行動科学・社会医学（Behavioral and social sciences）セクションの科目名に、医療社会学や医療人類学が明記されています。また、アメリカ医学校協会（AAMC）が行っている試験（MCAT）の試験科目に 2015 年から社会学が入りました。こうした状況のもと、日本の医学教育モデル・コア・カリキュラム平成 28 年度改訂版で、「医療に関連のある社会科学領域」（医療社会学や医療人類学）が新設されました。最後に、金子の本務校（防衛医科大学校）は今年 2 月に JACME の審査を受審しましたので、その体験談を話しました。

その後は自由討議をしました。他の医科大学（すでに JACME 審査を受審した大学やこれから受審する大学）の状況。非常勤で医科大学で社会学を教えている研究者の体験談（カリキュラム会議に出席を求められ、「医療に関連のある社会科学領域」の学修目標に記載されている項目を授業で教えるよう要請された）。看護大学の状況（医学歯学薬学と対応して看護学教育モデル・コア・カリキュラムが作成されていることなど）。また、医学看護学にとどまらず、文系大学でも近年文部科学省から大学教育の質保証が要請されつつあること、などです。トピックは多岐にわたり、予定の時間をかなりオーバーしました。

今後も情報交換をして、情報を共有する必要性が確認されました。そこで、情報交換の場としてメーリングリストを作成することにしました。医学教育コアカリの「医療に関連のある社会科学領域」の教育に関する情報交換を主たる目的としますが、参加者は医科大学でこの領域の授業を担当している会員に限定しません。興味のある会員は歓迎します。参加希望者は金子（knkmshk@gmail.com）までご連絡ください。

〈今大会においてキャンセルされた演題〉

口演 1-2　　緩和ケアとボランティアーその展開可能性と課題ー：竹中　健

口演 2-2　　認知症の社会史再考に向けた試論：京極　重智

口演 5-1　　中断に関する考察：山縣 弘子

## ２．第 45 回大会について（田代理事）

第 45 回日本保健医療社会学会大会は、2018 年 5 月 18 日（土）・5 月 19 日（日）に、東京慈恵会医科大学国領キャンパスにて開催されます。大会長は中村美鈴先生（東京慈恵会医科大学）、大会事務局長は佐藤幹代先生（自治医科大学）で、大会テーマを「保健医療社会学の新たな視座」をとし、現在精力的に準備を進めて頂いています。詳細については、次号のニューズレターにてお知らせいたします。

## ３．30 周年記念事業（田代理事）

第 44 回大会において、プレ 30 周年記念シンポジウムとして「保健医療社会学における方法論の未来」を開催しました。今回は計量的アプローチ、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、エスノメソドロジーという異なる 3 つの方法論に焦点をあて、それぞれの可能性と課題について、最新の知見を踏まえた報告がなされました。今後とも、当学会が保健医療の現実にアプローチする多様な方法論間での対話を推進する場となることを願ってやみません。

なお、次回大会では保健医療社会学の研究・教育・応用につき、これまでの 30 年を踏まえ、今後の 30 年を展望するシンポジウムを企画しています。今後会員の皆さんにご協力を呼びかけることもあるかと思いますが、是非積極的なご支援をよろしくお願い致します。

## ４．理事会・評議委員会報告（松繁理事）

日時：2018 年 5 月 19 日（土）　10：30～11：20
会場：星槎道都大学　3 号館 3 階 3304 教室
出席者：樫田会長、松繁理事、朝倉理事、三井理事、田代理事、伊藤理事、
林理事、石川理事、西村理事
事務局　平野（記　国際文献社）
欠席者：小澤理事

1. 第 44 回大会、評議員会、および総会についての確認　(樫田)

樫田会長より総会報告内容について確認があった。45 回大会について東京慈恵会医科大学にて開催される旨、報告があった。また、松繁理事より監査時の監事からの意見について報告があり、この内容は総会の監事報告の中で伝えられる旨、連絡があった。加えて、松繁理事より評議員会にて 30 周年記念事業に向けたアンケート結果と座談会について報告することが伝えられた。

2. 編集委員会報告　（朝倉・三井）

朝倉理事より 45 回大会時の論集のあり方に関するシンポジウムの開催企画案が伝えられた。

3. 定例研究会の報告(関東)　（田代）

大会委託費のこれまでの実際と今後のあり方に関する提案については評議員会にて意見を募ることとした。

4. 定例研究会の報告 (関西)　（伊藤・林）

特になし。

5. 看護・ケア研究部会会計報告　(朝倉)

朝倉理事より 5 月 20 日の看護・ケア研究部会総会にて決算が承認される予定であり、同時に役員が交代するとの報告があった。

6. 渉外・国際交流活動の報告　（石川）

石川理事より 44 回大会特別講演講師の資料翻訳等の準備状況等について報告があった。

7. ニューズレター109 号の配信について　（西村）
西村理事よりニューズレターの記事案が伝えられた。

8. 入退会者の承認　（松繁）
松繁理事より新入会者および会費免除者の承認依頼があり、承認された。

9. その他
特になし。

以上

## ５．編集委員会報告　（朝倉理事・三井理事）

2018 年 9 月末日を期限とする投稿から、投稿論文、カバーレター及び投稿論文チェックシートはメール添付のみで提出できるよう規定を改訂することを 5 月の総会で報告した。なお、論文投稿に関する誓約書のみは従来通り、書留郵便等での提出とする。具体的には、後日、学会ホームページに掲載する。

## ６．定例研究会の報告 (関西)　（伊藤理事・林理事）

次回の関西定例研究会は、秋の開催予定で、前田泰樹さん（立教大学）から質的研究をテーマに話題提供していただく予定です。詳細が決まりましたら、追ってお知らせいたします。

## ７．看護・ケア研究部会報告　（西村理事）

1）看護・ケア研究部会　2018 年度総会報告（2018 年 5 月 20 日）

（1）　部会員数は 55 名となった。

（2）　2017 年度会計報告、および 2018 年度予算案が承認された。

（3）　2018 年度活動計画案は下記の通りである。

| | |
|---|---|
| 第 1 回　5 月 20 日（日）部会総会 | 第 4 回　11 月 17 日（土）第 3 回例会 |
| 第 2 回　7 月 21 日（土）第 1 回例会 | 第 5 回　1 月 12 日（土）第 4 回例会 |
| 第 3 回　9 月 15 日（土）第 2 回例会 | 第 6 回　3 月 16 日（土）第 5 回例会 |

（4）　選挙結果報告

投票結果にもとづき、得票数上位 4 名が 2018-19 年度の新役員となった。

会　長：清水準一（東京医療保健大学）
副会長：西村ユミ（首都大学東京）
会　計：吉田澄恵（東京医療保健大学）
庶　務：三井さよ（法政大学）

2）第 44 回日本保健医療社会学会大会報告

第 44 回日本保健医療社会学会大会（5 月 20 日）にて、看護・ケア研究部会主催の RTD を行った。概要は下記の通りである。

RTD「看護・ケア研究部会のこれから―過去・現在・未来を見据えて―」
司会者：　中村美鈴（東京慈恵会医科大学）松繁卓哉（国立保健医療科学院）
話題提供者：　吉田澄恵（東京医療保健大学）

話題提供者： 白瀬由美香（一橋大学）
話題提供者： 本多康生（福岡大学）
指定討論者： 黒田浩一郎（龍谷大学）朝倉京子（東北大学）

【要旨】第 44 回学会大会において、「看護・ケア研究部会のこれから―過去・現在・未来を見据えて―」と題したラウンドテーブルディスカッションを開催した。話題提供では、まず白瀬氏が「看護・ケア研究部会が見つめてきたもの：2012～2017 年度の活動記録をもとに」という、近年の例会報告要旨の頻出語とその傾向について報告を行なった。続いて、本多氏が「看護・ケア研究部会の過去・現在・未来―社会学者としての立場から」のタイトルで、看護・ケア研究部会の歴史を振り返るとともに、看護学研究と社会学研究の差異、学際的議論の意義、課題について報告した。最後に吉田氏が、「看護職／看護学教育・研究者にとっての看護・ケア研究部会」として、自身の看護・ケア研究部会とのこれまでのかかわりと今後について報告をした。これらにたいして、指定討論者の黒田氏は、部会が創設された 1990 年代は保健医療福祉にとっても変革の時代であったことを指摘し、看護についての社会学／看護のための社会学が目指してきた方向性、ケアに包含される営みの多様性とそれらにまつわる論点を提示した。朝倉氏は、看護・ケア研究部会の学術的発展性に向けて、本多氏の報告 に看護学の立場からコメントし、さらに部会の今後の課題として例会開催地の地域性の問題を指摘した。フロアからは、以前に比べて看護学と社会学との違いは少なくなり、共同研究を行なう土壌は整いつつあるとの意見が出された。また、異なる専門分野をもつ持が議論し合う場としての看護・ケア研究部会の意義も確認された。今後については、隣接分野とのコラボレーション、ICT を活用した例会運営の可能性も積極的に探っていくことが提案された。

## ８．渉外・国際交流活動の報告　（石川理事）

第 44 回大会中に、国際交流委員会を開催した。引き続き、国際社会学会（ISA）をはじめとする国際学会に関する情報提供を行い、連携を深めていくとともに、保健医療社会学領域の海外研究者の来日について、できるだけ情報を集め、講演・セミナー等の情報提供や共催を検討していくことを話し合った。

海外研究者招聘の予定や学会員の参加が可能な講演、セミナー等がありましたら、ぜひ情報をお寄せください。

## ９．編集後記（西村理事）

・ニューズレターvol.109 は、主に 5 月の理事会および大会で議論された内容を掲載いたしました。
・日本保健医療社会学会ニューズレターは第 92 号からは PDF ファイルのメールマガジン形式で配信しています。メールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局まで御連絡ください。　http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm

発行：日本保健医療社会学会
編集：広報担当（西村ユミ）
学会事務局： 東京都新宿区山吹町 358-5　アカデミーセンター
jshms-office＠bunken.co.jp　　TEL：03(5389)0237